# FILM1/30
## 号外 JAniCA特集 2

# ■ JAniCA前副代表理事宇田川一彦氏に聞く、組織の変容
## JAniCAは善意と信頼の連鎖で成り立っている。

--------お忙しい中ありがとうございます。早速ですが、現在のJAniCAについてはどういう印象をお持ちですか？

**宇田川**　JAniCA設立当初と今の僕の置かれた立場を比べると、ものすごくひどい状態になったと思う。この間JAniCAの総会の印刷物が来て、その中に別紙で芦田氏と僕が法律違反をやった、そして定款に抵触したと書いてあったでしょ。でも法律違反て何だかよくわからない。それを見て、事情を知らない友達から電話がかかってきたんだけど「トクさん（注・宇田川氏の愛称）何かやったの？」って。「なんで？」って言ったらその法律違反のことだと。僕のことをよく知っている彼らには説明出来るけど、それが知らない人にも届くわけでしょ。一般的に言うと「法律違反」というのは大変なことだから。僕もアニメ長くやっていて、そんな風に他人から言われたことは一回もないしね。

------個人への中傷が増えてきました。組織的に行っているとすれば問題です。

**宇田川**　僕はJAniCAが世代交代によって多少変容していく部分があるのは致し方ないと思っていたんですよ。当初の考え方と違ったとしても、それが次世代の人の考え方であったり、力であったりするわけだから。またそれで痛い目にあったとしても、それはそれで通過しなければいけない組織の大変さだと思っているわけです。だからある程度目をつぶるつもりでもいたんだけれど、その印刷物に関してだけは許せない。

-------JAniCA設立の経緯は？

**宇田川**　最初に組織を作ろうという話を芦田氏が持ち込んだ時、それまでアニメ界では現場レベルでのクリエーター集団というのは全くなかった。みんな幼かったということもあるし、それが色々な弊害を生んでいた。だからそういう組織ができればいいなと日頃思っていた。けれど僕自身は単体で生きているから、会社の頭に立つ人がそういう動きをしてくれればいいなと思っていた。芦田氏とは付き合いが長くて、ずっと連絡もしてなかったんだけど、その話の最初に会ったんですよ。そのときに荒木伸吾さんと僕、友達の岡迫(亘弘)さん、安部(正巳)さんというのが集まって、芦田氏の考えに賛同して、じゃあやろうということになったんです。

------芦田さん・宇田川さんが多くの発起人を直接勧誘していましたね。

**宇田川**　最初に僕らが考えていたのは、今まで長きにわたってそういう組織はなかったから、何らかの邪魔が入ることは間違いない。ならば邪魔が入っても太刀打ちできないような組織にしようと。方法論として、業界で発言力のある人たちの名前を発起人としてできるだけ集める。期間はないかもしれないけれど、手分けしてたくさん巻き込もうと。発起人は名前も公にするということが前提で。芦田氏と2人でいろんな会社に行きました。僕はフリーで仕事をしているから、時間をとられるのは大変だったけれど。ひとりの人に4時間かかって説得したりね。それでだんだん組織立ったものが出来てきて、無限責任中間法人というのが出来た。便宜上、芦田氏が代表で僕と神村さんが副代表ということになって。立ち上がりの時の役職は便宜上の話で、総

2011.1.26. オープロダクション第2スタジオ

会もなかったし、みんなのサインで決められたわけでもない。外からの協力者もたくさんいて、これは自分が思ったよりもちゃんとしたものになるな、楽しいなと思って来たわけです。
立ち上げの記者発表も、アドバルーンを上げるのは華やかな方がいいと思って、派手だったしね。いい傾向だなと思ってたんです。

------なぜ組織が変容していったんでしょう?

**宇田川**　ところが我々にはどうしても事務方が不足していて、それが弱点でもあった。そうして事務方として桶田君が入って来たわけです。その後桶田君の紹介で（現事務局長の）大坪君が入った。みんな仕事をしながら事務方の部分はボランティアで始めたんだけど、彼らに自然に委託するような形になった。当時、理事は６人いて、運営委員会というのを月に１回やっていたんです。理事の他に運営委員という形でたくさんメンバーがいて、みんなの話し合いで物事が決まっていた。名目上は理事になっているだけであって、僕にとっては理事も運営委員もまったく同格でした。
　ところが理事の中で動きが少しおかしい人がいて。初めは積極的で広範囲に行動するし、頼もしいなと思ってたんだけど。その人の話では会員の人数を増やしたいけれど、勧誘活動を無償でやるのはもう限界だということだった。そのころ文美の保険にも入っていて、僕はそれもいい傾向だと思っていたんだけど、それをエサにして勧誘して、会費を払う会員を増やそうと。そのためには勧誘した人がJAniCAから謝礼をもらうことにしたらと言い出して。保険屋じゃないんだから（笑）変なことを言うなあと。僕はなんでそんなあせるのかと思った。短期間で組織作りを進めて行くと間違いなくおかしくなる。みんながボランティアで、善意でやっていくわけだから、時間がかかっても一歩一歩確実に進めて行くやり方がいいと、芦田氏と僕は最初からそう思っていた。無理をすると瓦解するし。それを全然違うペースで進めるような人がいたわけです。

-------宇田川さんとしてはちょっと初志と違うな、と。

**宇田川**　そのころは運営委員の人も増えていて、去年6月の総会の何ヶ月か前に、運営委員会で僕は理事を抜けたいと事前に言っていた。もちろんJAniCAを抜けるという意味ではなく、僕なりのやり方でサポートすると。というのもあるときから（理事と運営委員が）すべてメールで情報をやりとりするようになったんだけど、僕は頻繁にメールをやらないので。みんなのメールが１日に何十通も入って来て、まとめて夜に見て、問題があるときは直接電話して訊いたりしていたけど、即反応できないというイライラがあった。だからこういう僕みたいなタイプの人は理事にいてもしょうがないと。運営委員会には出て、側面から僕なりの意見を言わせてもらうとか、やれることはやらせてもらうとか、そういう関わり方にしようと。僕の役割は年齢的にももう十分だろうと思っていたのでね。その矢先に文化庁の話が持ち上がった。

-------問題の文化庁の若手アニメーター育成事業ですね。

**宇田川**　文化庁に対しては元々神村さんが積極的に動いていた。僕の感覚からいうと、生涯現役アニメーターでやっていく僕としては、文化庁なんて全然興味がない。だからすごいことを考える人がいるんだな、自分とは全くちがう生き方だなと思って見ていました。その件では桶田君も一緒に動いていた。彼が作った企画書があって、運営委員会でそれを見せられて。アプローチすること自体は全然問題ないわけだから、それを提出しようということになり、運営委員も理事もそれは賛同した。新聞でも文化庁がアニメに予算を割くという情報はあったし、僕はこの話は間違いなく決まるなと思っていたんです。
問題は実際に事業の受託が決まった後で、具体的に事を進めるのに話し合いをすると思っていた。どこまでJAniCAが関わるのかとかね。ところがそれは全くなくて、ある日突然、今まで動いてきた2人の主導で、文化庁で事業の説明会が始まったわけです。
それで運営委員と理事は何だったんだ、ということになって、文化庁に行った。代表と副代表が事の顛末を知らない訳だから。文化庁の人に、恥ずかしい話だけれど僕らは何も知らないと。桶田君と神村さんで進めている話なので、それをフィードバックしてくれないかというような話はしました。ただ、事業自体をやめたいとか、そんな話はしたためしもない。僕は企画書の中身について、個人的に文化庁に問いただしたいことがあった。文化庁の話はすべてこの2人を通してでしか伝わってこなかったので。
選定委員の選び方についての僕らの希望を「それは文化庁がダメだと言っている」と桶田君が言い出して。しかし実際に文化庁に問いただすと「現場のことはわかりませんから、すべて（JAniCAに）まかせています。そんな話はしていない」と。すべてこの2人が、理事全員と運営委員の同意も得ずに進めた事だったと思う。

-------最初から意図的に「うるさい人」を蚊帳の外に置く計画のように見えますが?

**宇田川**　僕が一番許せないのは隠し事があったというか、企画書も（予算や人事など）オブラートに包んでいた部分がたくさんあった。どういう予算でJAniCAがどういう風に関わりを持つのか、JAniCAの会員全員が納得しているのが当然で、隠れている部分があったらおかしい。それがものの見事に隠れていた。芦田氏が手に入れた企画書のもっと細かい内容には、桶田君のギャラが１時間３万円だとか、考えられないような金額が書いてあった。それでもう、何を考えているのかと。もし彼がその金が必要なのだとしたら、JAniCAはもうそういう人はいらないわけです。そういう

2007.10.13.設立記者会見

ことも全く知らないまま、事が進んでいた。

---------2010年6月の理事会・総会はどういう風だったのですか？

**宇田川**　6月の総会と同じ日に理事会があった。我々が総会で発言出来なくなるような地固めを着々と彼らはやっていた。委任状を集めているというのは噂で聞いていたんだけど。
芦田氏と他の３人の理事で神村さんを糾弾したんです。理由は文化庁事業の現場プロデューサー的関わり方をしていた神村さん自身が自分の企画を提出しようとした事。
これはインサイダー取引になるんじゃないかと。そしたら部屋の隅で背を向けていた彼女がいきなり振り向いて「私理事を辞めます。宇田川さんも理事を辞めて下さい」と言われた。そのとき「なんで？」と訊こうかと思ったけど、もう面倒くさくなっちゃって。さっき言ったように、もともと理事は辞めるつもりでいたので。
　それで神村さんも抜けて、そのときにびっくりしたのは井上君という人が運営委員にいたんだけど、彼の攻撃がすごかった。芦田氏に対して「理事長が文化庁に行って企画をボツにするとしゃべるのはおかしい」「いまきつくなっている状況で、お金が流れ込むだけでも全然メリットがあるんじゃないですか」と。「なぜその理屈がわからないんですか」と決めつけられて。

---------井上氏の発言には他のみなさんもびっくりしたと聞いています。だんだんと理事・運営委員会がおかしな方向に変わっていたということでしょうか？

**宇田川**　それ以前からおかしいと思ってたんだけど、桶田君が途中から座長みたいに仕切っていた。僕は「ヤマト」で拘束されていて休みがとれず、１年間くらい運営委員会には３ヶ月にいっぺんくらいしか出れなくてね。事情がよくわかってないところがあって。
ヤマトが終わって、また毎月行くようになったら、完全にリーダー然として桶田君が仕切ってるわけね。で、変だなあと。知らないうちにそういう風になってたんだなあと思っていたんだけど。で、あるとき彼が「私の話についてこられる人は神村さんとヤマサキさんだけです」と言い出して。他の理事も委員もたくさんいるのに、よく言うなあと。そのときから変だなと思っていたんだけど。

---------特に「芦田・宇田川はついて来られない」ということを言いたい？

**宇田川**　その日の理事会で、芦田氏も僕も降りようかなと。降りるのはいい、我々は投票で決まったわけではないし、総会で組織固めができればいいと思ってるわけだから。そのときに運営委員の一人が「（神村さんが）たくさん委任状を持っていて、降りるとはっきり意思表示しないと総会でひどい侮辱を受ける事になるから」と言われて。（辞任の）書面も用意されていて、名前を書き総会が始まった。
芦田、宇田川、神村の3人の理事が辞めたので、新しい理事3人を選出する事になり、僕の記憶だと5人の立候補者がいました。そして神村さんの集めた委任状150通くらいを後ろ盾にした、ヤマサキ君、井上君、杉野さんの3人が新理事に決まったわけです。総会の出席者は40人くらいいたけど、極端な話、どんな議題でも神村さんの票で通ってしまったと言うこと。そんな茶番劇のためにJAniCAがあるわけじゃない。国会みたいに人数合わせで物事が決まるなら、JAniCAなんてまったく必要ないし、僕らが立ち上げる必要もなかったんだけど、まったく違う価値観の人達がそこにいたってことなんです。
そして、理事を辞めた神村さんは今も文化庁事業の中心になり、JAniCAの名の元に活動しているこの矛盾、何とかしてくれー！

---------目的も手段も違うということですね。神村さんはその後JAniCAの会員も辞めたということですが、事業そのものの担当は継続されているようで、理解できません。

**宇田川**　僕はアニメ業界に長いこといて、そういう人に出くわしたことがない。友達はたくさんいるけど、合わない人は削除して来て、僕の人生にはいないことになってるから（笑）そういう人たちに出くわしてびっくりした。総会のときに見た事がないような変な奴が30人くらい、いっぱいいるんですよ。

---------事務局のやとった警備員ですね。

**宇田川**　彼らがまったく違う価値観なのは、我々が人を呼んで大騒動になると踏んだんじゃないかね。混乱を収拾するために（警備員を）呼んだんじゃないかと。後で聞いたら大坪君たちの仲間とか色々いて、日当が一人一万円だとか。会議をしているときに幕で囲まれてたんだけどその下に彼らの足がずらっと見えるわけ。気持ち悪いでしょ（笑）だから何と言うかねえ、そのおぞましさ。

---------我々想像力はある方の人間だと思いますけど、その域を超えてますね（苦笑）

**宇田川**　呆れ返るというかね。彼らは彼らなりの理屈で正しい事をしていると思っているんだろうけど。だから我々が邪魔をしていると思ってる。JAniCAが新しい風を巻き起こすには、そしてこれからのためには仕事を手に入れて、単価が安い中にも高いものを混ぜて行くとか、確かにいろいろある。けれど予算の内訳も冷静に見ると4作品の予算の他に消えてしまう多額のお金がある。知らない人でも見ればすぐわかるから、総会で質問した人がいるんだけど。

---------改選の結果の変化は？

宇田川　それまでJAniCAでも健全なことを色々やっていた。芦田氏がパース講座をやったり、奥田(誠治)氏が絵コンテ講座やったり、新人の人たち向けに無償でね。今はそんなこと全くやっていない。新しい理事になってから、都条例の決定に対しても、何のアクションも起こす気配が全くないという……情けないというかね。今現実はそういう人たちがJAniCAを仕切ってるってことですよね。

2007.10.13.設立記者会見

しかも彼らは様々なことを隠そうとして、そして自分たちが正しいということを流布するためにいろんなことをやってるんだけど、残念ながら会社の頭の人たちやアニメ界をいろんな意味で牽引してきた人たちっていうのは、みんな我々の仲間だったり友達だったりするわけです。それが全然わかってないというかね。

---------理解し合おうという姿勢ではない？

**宇田川**　理事の中にも自分はこれだけ動いているのにみんな何もしていないと思っている人がいたけど、僕らは世代的にも誰に会ってこれを話してなんて、運営委員会でも細かく言わない。ボランティアっていうのは黙って動くのが当然で、これだけ動いてるんだよ、なんてことをいちいち言う必要もないわけだから。そういう感覚を持っている人が多かったから、逆に何にもしてないと言う人が出て来てしまったのかな。いま考えると、そういう物事を考える基準というのがまったく違う人たちがいるってことですよね。

とはいえこの問題を放置するわけにいかないので、着地点を決めなくてはいけないんだけど。総会をやる前にどういう風にするかを考えないといけないと思っています。今いちばん気になっているのは芦田氏の体調で。以前と同じだったら「お前さんが言い出したんだから神輿の上にずっと乗ってろ」と言えるんだけど、そうは言えない状況があるんでね。

---------体調が許せば総会などでは、ご登場頂きたいと僕は思っています。

**宇田川**　僕は文化庁の仕事とか、そういうことを目途にしてJAniCAが発展していこうというのなら、そんな組織はまったく必要ないと思ってます。それならそのための会社を作ればいいわけで、JAniCAは会社じゃないからね。もっと瑣末なことでも、現場の人たちがたくさんいるわけだから、色んな事を拾い上げたい。産業上のシステムにしても、今は原画がレイアウト（ラフ原）と二原に完全に分かれていて、作監のところで止まって全然戻ってこないとか、そういう仕事の流れをなんとかしないと。動画協会理事長の布川さんは友達でもあるので、（話し合って）元請けの人と現場をもっと密にするとか。お互いきつくなるわけだから、意味のないことをしないように、無駄を省く方法論を業界全体で考えるとか、そっちの方がずっとJAniCAと関わるところだと思っています。それがJAniCA設立の趣旨でもあるし。

---------仕事が先細りになってきた今日現在、それこそ考えなきゃいけない問題ですね。業界全体で備えなければいけない。それを放ったらかして助成金に走っても、根本的な解決にはならないと思います。

**宇田川**　運営委員会、総会の前の日にM社の社長を調整役に若手理事も交えて桶田君と話し合った。元々その文化庁の話を通した人から、（育成事業のことで）混乱しているから何とかしてくれという話があったらしくて。僕も芦田氏に来てくれないかと言われて行った。びっくりしたのは、桶田君を社長が4時間くらい責めても、感情を表にまったく出さない。「申し訳ない、私の力が至らないところで……」というばかりで。何をしゃべってもかみ合う事はないだろうというタイプだった。その話し合いのとき、僕は桶田君に質問しました。企画書にある予算書等は神村さんと2人で決めたの？と聞いたところ、「そうです」という事でした。
それに桶田君は初めの頃、僕らの動向が気になって気になってしょうがなかったみたい。で、作為的にいろんなことをやるだろうと、自分がそうだから、相手もそうだと思うんだろうね。そういう意味では、囲碁の詰将棋と同じような感覚でいるんじゃないかな。

---------今回も理事になりたい人は住民票を付けろとか、委任状を１週間前に届け出ろとか、障害物競走みたいにハードルをどんどん上げてますよね。すごくわかりやすいんですが（笑）

**宇田川**　そういうのも自分で勝手に決めてるんだよねえ。僕らには考えられない事をやるところが、普通じゃないと思う。JAniCAと関係ないところで勝手にやるのはかまわないけれど。
彼らが「いい思いをしてきた人たちが今さら」って言うでしょ。何がいい思いなのかと。何か勘違いしていると思う。若手の人は先輩達の蓄積があって、そこからスタートしているわけで、それがわからないというのは人間の作法としてどうかと思う。今回のことで、現執行部の連中は先輩に敬意を表する感覚がみじんもない。だからそういう連中にアニメ界を仕切らせるというのはあってはいけないことだと思っています。
今ニーズが我々の知らないところでものすごく広がっていて、意思統一するというのは難しい事。僕にやれる事と言えば、せいぜい僕の知っている会社の代表者に説明するくらいだけど、全然知らない会社もたくさんあるし。

---------でも今考え直してもらわないと、これから彼らの考え方がまるで業界の中心のルールみたいになってしまうと、これまで情で支えられて来た人間関係がボロボロになってしまいますからね。少なくとも僕の周りの人間にとっては、先輩の村田耕一や小松原一男という師匠から受け継いで来た生き方があります。その考え方を100%受け継いでもらおうとは思わないけれど、その人たちの生き方、やってきたことがゼロになるようなことはあってはいけないと思うんです。同じ業界に住む一部の人間が金に走って、先輩を敬愛する気持ちがないなんて悲しいですよ。

**宇田川**　最後に、JAniCAは善意と信頼の連鎖で成り立っている。そしてJAniCAは芦田氏がいなければ出来なかったのだから、芦田氏の功績を忘れない。この2点を忘れずに、一日も早く健全な運営が出来るよう、願います。

--------今日は長い時間ありがとうございました。早く正常化したいと本当に思います。

2011.1.26　荻窪のオープロ第2スタジオで収録
聞き手/文責：なみきたかし　テキスト：菅沢悦子